



MOBILE SUIT  
MS-06R-1A

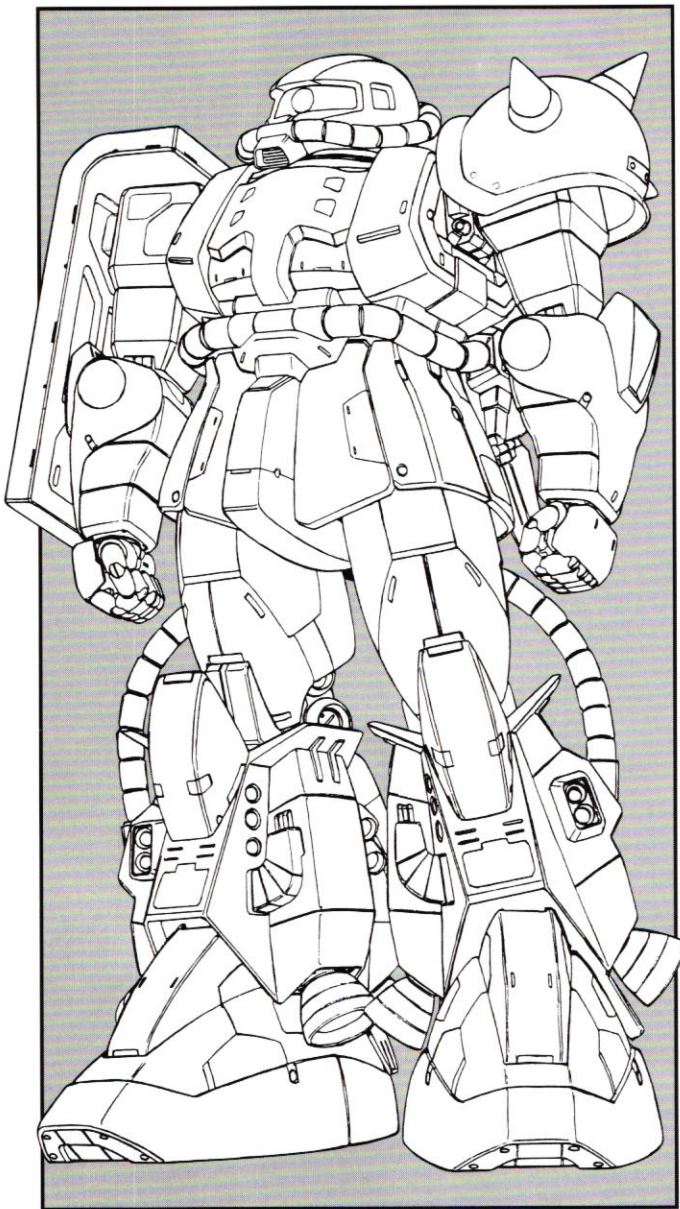
# ZAKU-II

PRINCIPALITY OF ZEON  
MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT



ジオン公国軍宇宙空間戦用  
高機動型モビルスーツ  
MS-06R-1A「ザクII」  
チームカラーバリエーション 黒い三連星  
1/100スケール マスターグレードモデル





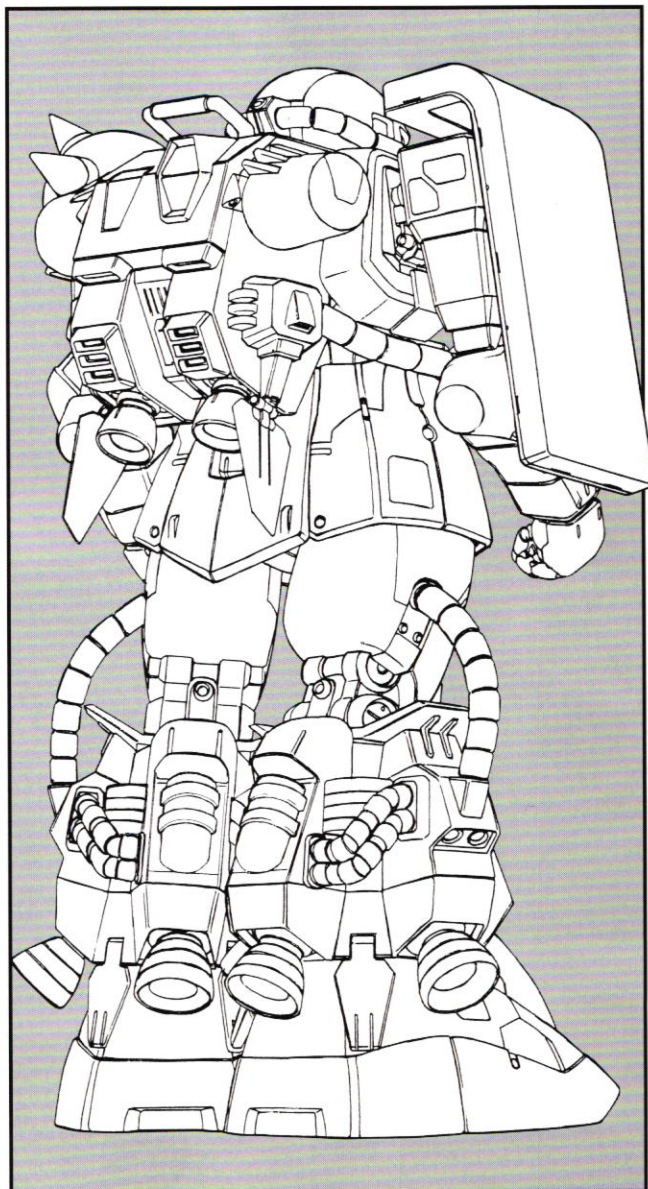
一説には、R型は脚部ユニットのみで、それまでの平均的な機体のスラスト一総推力に匹敵するほどの出力をもっていると言われており、実際、単に加速性能が抜きん出ているばかりでなく、機動、制動、方向転換、姿勢制御など、あらゆる側面で破格の性能を発揮した。

それに比例してプロペラントの消費も膨大なものとなることが予想され、補給の側面から実践配備を危ぶむ声も皆無ではなかったが、それらのリスクを冒しても十分に見合うだけの戦果が期待されたため、次期主力機として量産されることが決定した。

ところが、量産に振り分けられるべき施設の調整に手間取ったため、結局は十分なライン変更も行われぬまま生産されたR-1型は、新設計のロケットエンジンの歩留まりが安定せず、22機が生産されただけで設計の見直しが計られることになった。そのため、R型が正当に評価されるのは、もう少し後のこととなる。

月面のグラナダ基地において、F型をベースとして作られたR型試作機は、エリオット・レム大佐をテストパイロットとして、2週間のトライアルを行った。プロトタイプは当所目標とされていたスペックを達成し、晴れて量産される運びとなった。しかし、公国軍のMS生産施設のほとんどがF型を始めとする量産機の生産に追われており、かなりの設計変更を含むR型の生産には多くの困難が伴った。

# MS-06R-1A ZAKU II



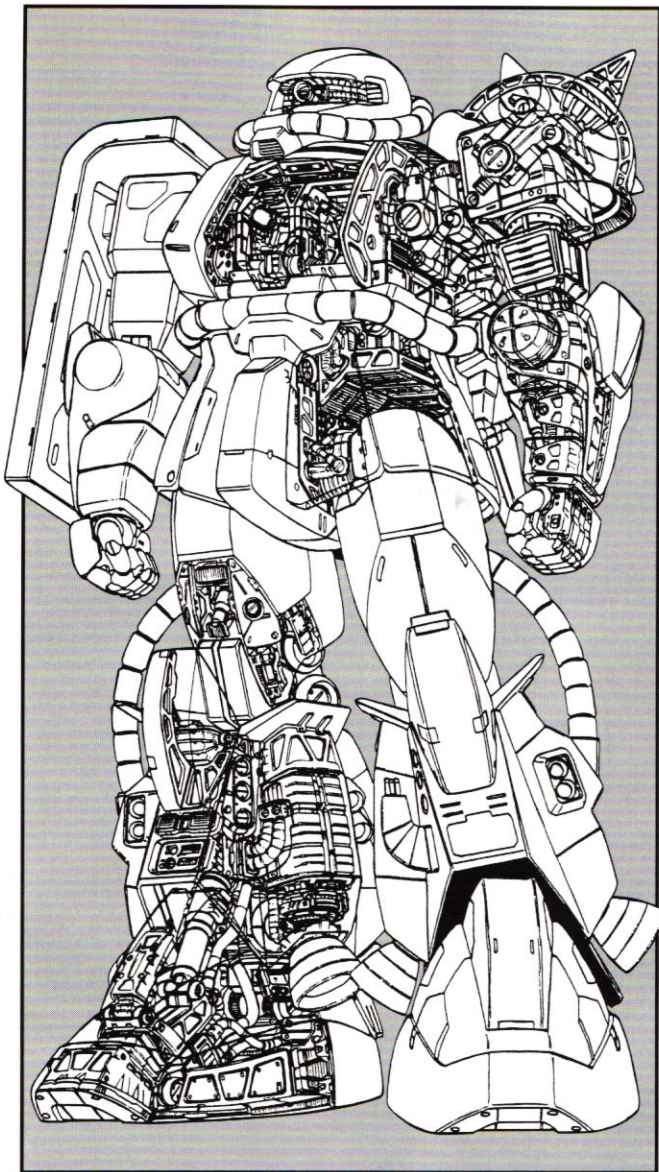
U.C.0078年に始まった06型の開発は、高い生産性と汎用性の獲得を目的として進められていた。しかし、さらなる高性能化の要請は、上層部はもとより、0075年以来MSを駆ってきたベテランパイロットからも多く寄せられていた。本来、06型自体が05系の高性能化を達成した機体だったはずのだが、優秀なパイロットほどMSへの順応性は高く、さらにシビアで高性能な機体を要求してきたのだ。そのため、初期に想定されていたレスポンスや搭乗者への負担設定などは大幅に書き換えられることになった。MSという新たな兵器は、搭乗者自身をも確実に進化させていたのかもしれない。

R系の、いわゆる高機動型ザクは、それらベテランパイロットたちのためにあつえられた特別の機体であり、MS-06の、というよりは、MSそのものの更なる高性能化を目指して開発された機体であると言える。

06型の機能向上機の試案は、C型の量産が本格化した0078年6月には提出されていたが、当時は生産性の向上を最優先事項としていたため、その計画は事実上頓挫していた。実際、F型の量産とほぼ同時にチェーンアップタイプのS型やFS型なども少数生産されていたが、生産ラインやアビオニクスが本格的に変更を受けるのはR型の開発が決定されてからのことだったのだ。

R型の設計において最も顕著な特徴は、脚部の構造変更と背部バックパックの換装である。F型やS型は、脚部バーニアの増設によって機体の運動性と機動性を圧倒的に向上させたが、それはあくまで、“姿勢制御の援用”の域を出るものではなかった。しかしR型は、背部ユニットの構造変更によってジェネレーター出力を向上させ、バーニアの推力強化を計るとともに、機体の半分を占める脚部そのものをベクターノズルと考えることで、機動性と加速性を相乗して向上させることに成功しているのである。

Conceptual illustration : BEE-CRAFT



## MECHANISM

ロールアウトした機体は、順次、実戦テストを兼ねて本国防衛隊を含む各要塞基地やバトロール艦隊に向けて配備されていった。しかし、プロペラントの仕様やメンテナンスの手順が従来の機体規格と大幅に異なるため、現場作業にはかなりの混乱を伴った。何よりも、この機体を割り当てられた部隊に、機体を十分に使いこなせる熟練パイロットの数が少なかったことが災いした。結局、MS-06R-1型は、いわゆる先行型と同程度の22機が生産されただけだった。R型の本来のポテンシャルを知る技術者たちは、運用面で大きな障害となっていた燃料補給やメンテナンスの煩雑さを緩和するため、補助燃料タンクのカートリッジ化を始めとする改善策を実行した。加えて熟練パイロットを各部隊に照合し、ようやく適性配備できるようになったのである。

運用改善の一環として脚部の補助燃料タンクをカートリッジ化した機体は、形式番号をMS-06R-1Aと改め、多くのエースパイロットのもとに届けられた。そして生産工程の問題点もある程度解消され、いくつかの生産拠点で同型機の生産が可能となった。そのことで、この時期のMS-06系のトータルスペック自体が向上するという効果もあった。R型への搭載を前提とした高性能ロケットエンジンなどの部品や構造材の歩留まりの安定は、「ザクという工業製品」そのものの品質向上に貢献することになったのである。ただし、この機体の製造工程の複雑さは依然として解消されておらず、生産性も思うように向上しなかったため、本格的な量産機となることはついになかったのだ。

R型は、稼働条件が複雑ではあったが、非常に高性能だったため各部隊のエースパイロットからは高い評価を得ていた。この機体を希望するパイロットは

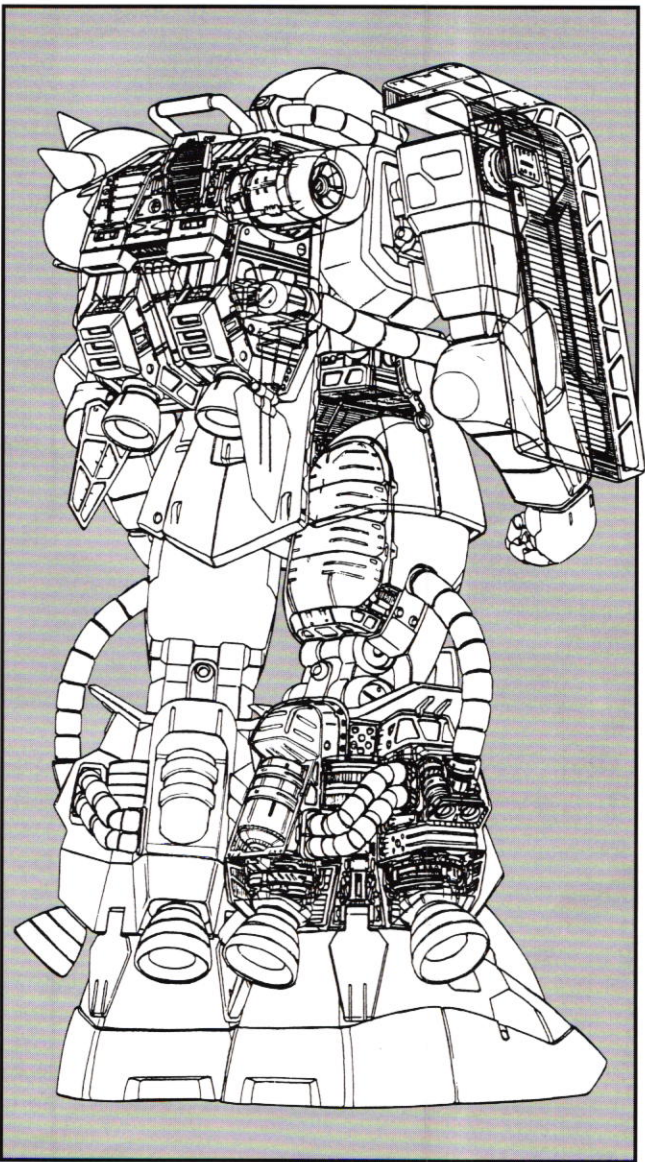
多かったが、製造コストが高く、大量生産もほとんど不可能だったため、当時のパイロットの間では、「連邦の戦艦を沈めるよりもR型を手に入れる方が難しい」とまで言われていたほどだ。

R-1系の機体は、22機作られた内の10機ほどがR1-A型に改修され、一年戦争末期までの間に56機が新たに生産されている。主な生産拠点は月面のグラナダ工廠とジオン本国のジオニック社のいくつかの工場、拠点ごとにマイナーチェンジバージョンが存在しており、性能自体もかなりのばらつきがあるとされている。しかし、多くの著名なエースパイロットが搭乗していたこともあって大きな戦果をあげており、一年戦争初期の傑作機とされている。

この機体を駆ったことで知られるエースパイロットとしては、試作機のトライアルを行い、開発そのものにも関わっていたエリオット・レム大佐。ルウム戦役において連邦艦隊司令のレビル将軍を捕虜にしたことで名を上げた、「黒い三連星」の異名を持つガイア少尉を中心とするオルテガ、マッシュラ特務小隊。そして、宇宙攻撃軍を擁するカズル・ザビ中将の懐刀と呼ばれるシン・マツナガ大尉らが著名である。特に公国軍の広報部は国民の戦意高揚に積極的であり、子供番組との提携や高い戦果を誇るエースパイロットの紹介に余念がなかった。前述のパイロットたちも同様で、最前線における英雄として喧伝された。その際、一般兵士と異なるカズル・ザビ中将の懐刀と格好の宣伝材料であり、自国の技術力の優秀さと戦況の粉飾に存分に活用された。実際、この時期の公国軍は連邦軍に対して常にアドバンテージをとっており、その象徴が1A型を始めとする「ザク」の雄姿だったのである。

MS-06R-1Aは、MSそのものが転機を迎えていたことを象徴する機体でもあった。この機体の成功こそが、後の高性能MSを生み出す土壌となっているのである。

(※文中の階級はいずれも当時のもの)



Mechanism illustration : BEE-CRAFT

MS-06R ZAKU II  
Snap Shot

Parts name of  
MS-06R ZAKU II

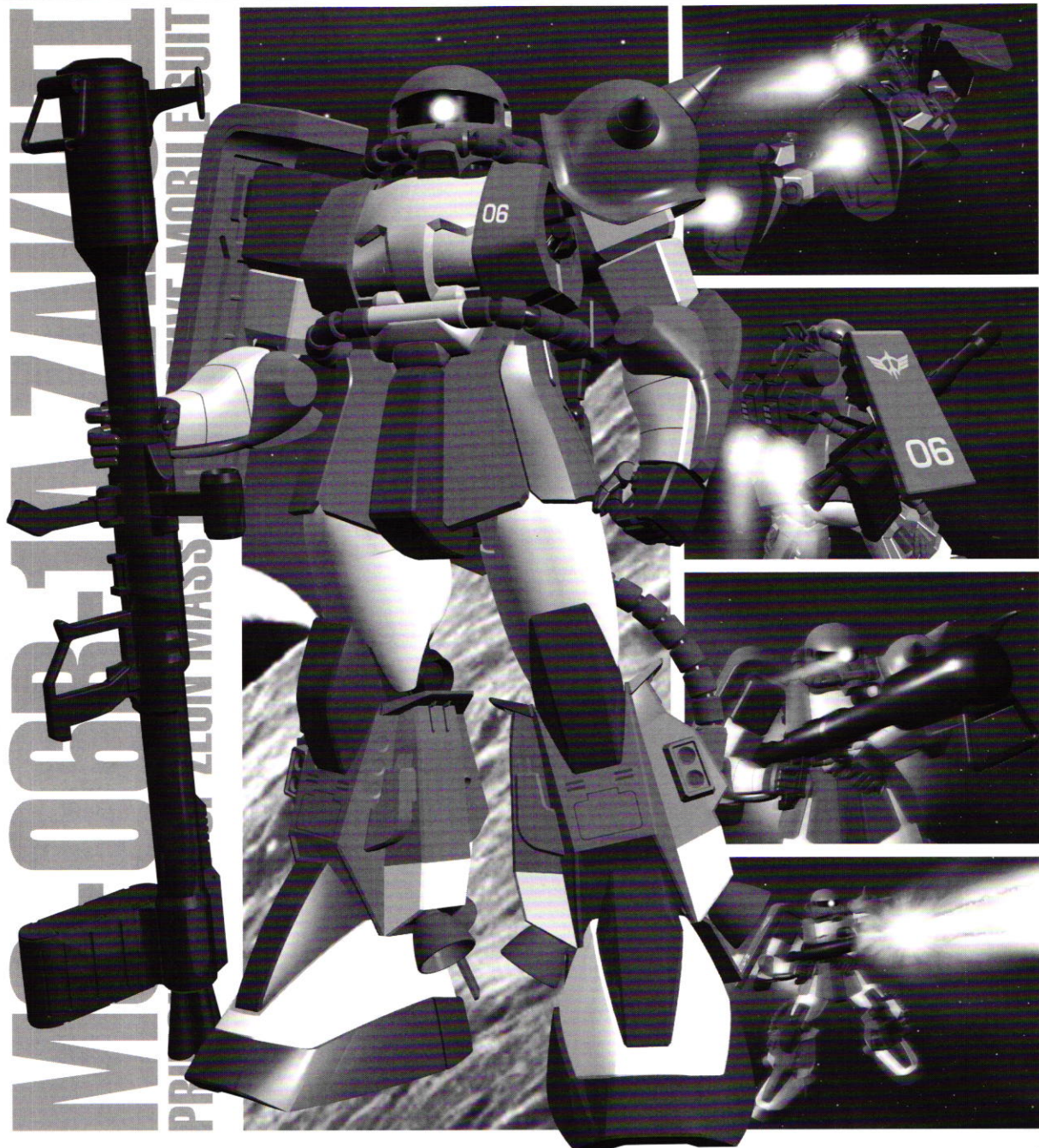
Parts List

Head &  
Arm Unit

Leg Unit

Back Pack &  
Weapons

Final Assemble



宇宙世紀  
U.C.0079年。地球に最も遠い宇宙植民都市サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んだ。公国軍は巨大な人型兵器MS（モビルスーツ）を使い、宣戦布告と同時にサイド1、2、4を襲撃。コロニーのひとつを地球に落下させ、甚大な被害をもたらした。続く一カ月あまりの戦いで、ジオンと連邦は総人口の約半数を死に至らしめ、戦闘は膠着状態に陥った。

後に一年戦争と呼ばれるこの戦いにおいて、MSは連邦軍とジオン公国軍の圧倒的な戦力差を覆し、公国軍に緒戦での勝利をもたらした。MSとは、それほどの威力を持つ圧倒的な兵器だったのである。そしてMSはボタンの押し合いだった当時の戦略、戦術を過去の遺物とし、

古き良き時代の“エースパイロット”という存在を復活させたのである。一年戦争において勇名をさせたパイロットは数多い。中でも、MS-06Sを駆るシャア・アズナブル、06Rを開発したエリオット・レム、06R-1Aのシン・マツナガ、06R-2のジョニー・ライデン、06Kのイアン・グレーデン、14Cのトーマス・クルツなど、枚挙にいとまがない。

なかでも黒い三連星は、黒、紫、グレーをチームカラーとするMS-06R-1Aを駆ったことで知られ、キシリア麾下の突撃機動軍きっての勇猛さを誇り、三位一体の波状攻撃「ジェットストリーム・アタック」を駆使して多数の連邦艦を撃破している。

# MS-06R-1A ZAKU II

MS-06R ZAKU II  
Snap Shot

Parts name of  
MS-06R ZAKU II

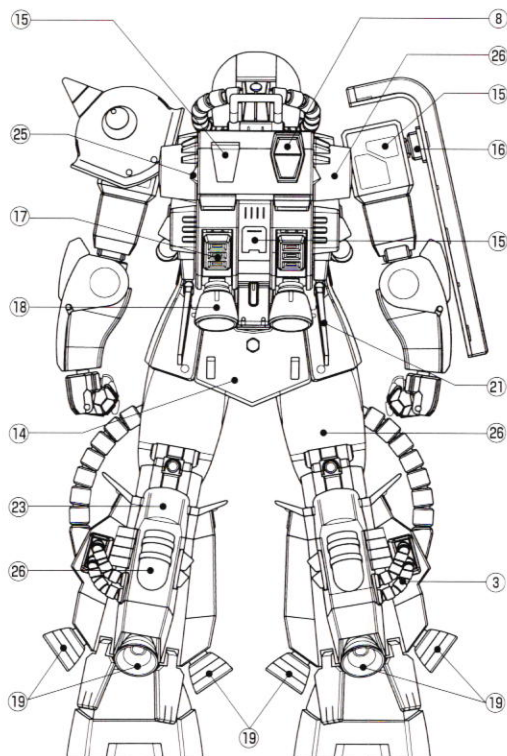
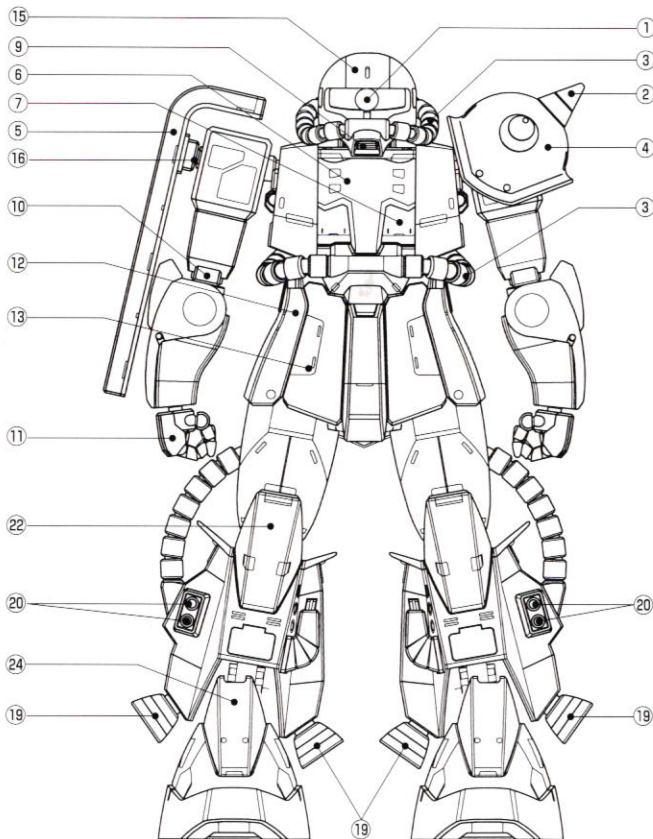
Parts List

Head &  
Arm Unit

Leg Unit

Back Pack &  
Weapons

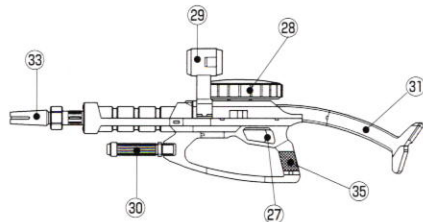
Final Assembly



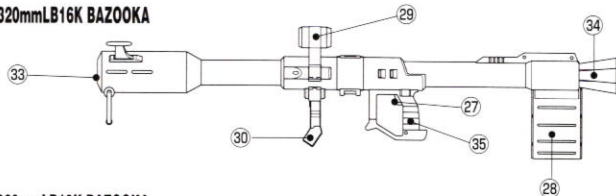
- |             |             |               |                |           |
|-------------|-------------|---------------|----------------|-----------|
| ① モノアイカメラ   | ⑧ リアセンサー    | ⑮ メンテナンスハッチ   | ⑳ ニージョイントアーマー  | ㉑ サイトスコープ |
| ② ショルダースパイク | ⑨ マルチプルノズル  | ⑯ シールドジョイント   | ㉒ レッグアーマー      | ⑳ フォアグリップ |
| ③ パワーサブライヤー | ⑩ エルボージョイント | ⑰ フィックスドスラスター | ㉓ フットジョイントアーマー | ㉔ ストック    |
| ④ ショルダーアーマー | ⑪ マニピュレーター  | ⑱ メインスラスター    | ㉔ ベント          | ㉕ ヒートブレード |
| ⑤ シールド      | ⑫ サイドアーマー   | ⑲ サブスラスター     | ㉖ プロベラントタンク    | ㉖ マズル     |
| ⑥ フロントパネル   | ⑬ フロントアーマー  | ⑳ パーニアスラスター   | ㉗ トリガー         | ㉗ ダクト     |
| ⑦ コクピットハッチ  | ⑭ リアアーマー    | ㉑ スタビライザー     | ㉘ マガジン         | ㉘ グリップ    |

注) この機体は、U.C.0079年06月下旬から生産された06R-1A型のうち、グラナダ工場において建造されたバージョンです。06R-1型の基礎フレームに、脚部の設計変更などを経てロールアウトしました。

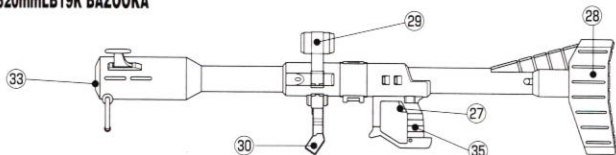
## 120mm MACHINE GUN



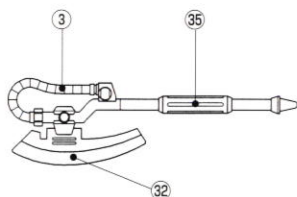
## 320mm LB16K BAZOOKA



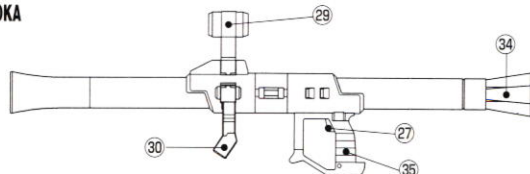
## 320mm LB19K BAZOOKA



## HEAT HAWK

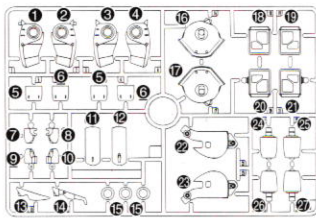


## 280mm BAZOOKA

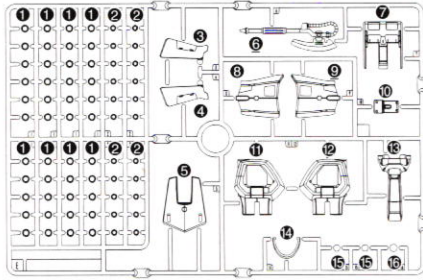


## パーツリスト

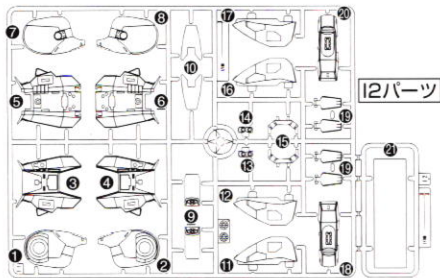
**Bパーツ** ※①～④・⑫～⑮・⑳～㉓  
は使いません。



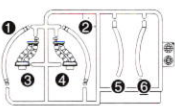
**Eパーツ** ※①12個・②2個は予備です。  
※⑦・⑮は使いません。



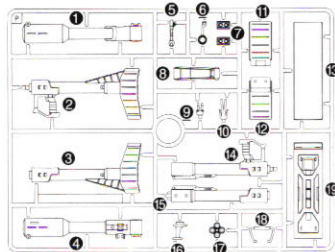
**I1パーツ** ※⑨・⑩は使いません。



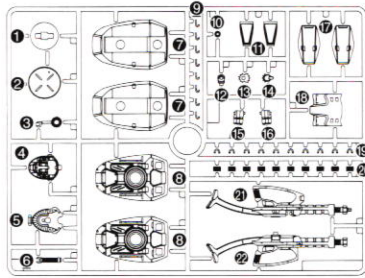
**Lパーツ**



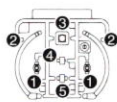
**Pパーツ**



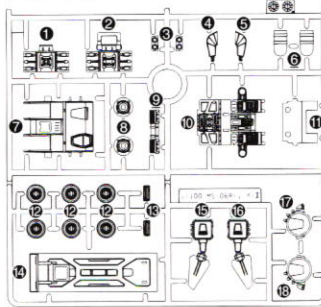
**Cパーツ** ※⑯は使いません。



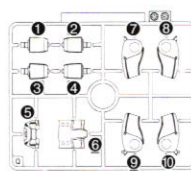
**Gパーツ** ※②は使いません。



**Jパーツ** ※⑭は使いません。



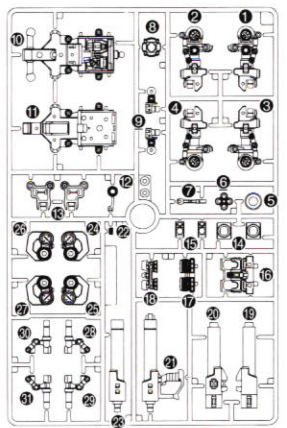
**Qパーツ**



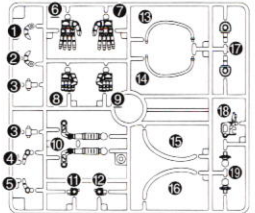
**R2パーツ**



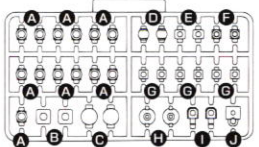
**Dパーツ** ※⑯～⑳は使いません。



**Hパーツ** ※①1個は予備です。  
※①・②・⑤・⑥は  
使いません。



**PC-111**



※P.C①は使いません。  
※P.C G2個・P.C F1個は予備です。

マーキングシール…1枚  
ガンダムデカール…1枚  
スプリング (細)…2本  
スプリング (短)…2本  
スプリング (長)…2本

### 《お買い上げのお客様へ》

商品についてお気づきの点がございましたら、お客様相談センターまでお問い合わせください。また、部品をこわしたり、なくした人には実費にてお付けします。「部品注文カード」に必要な部品の番号・数量をはっきり書いて切り取り、普通為替または定額小為替で下記までお申し込みください。代金は部品代 (1個40円×個数) + 郵送料 (120円) + 為替手数料 (金額によって異なります) です。為替証書は無記入 (白紙) で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じることがあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。(R2①は300円です。)

■申し込み先 (株)バンダイ静岡工場 お客様相談センター・部品係  
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

1999.06/T・TO

部品注文カード 72574-3000

1/100SCALE MGシリーズ  
MS-06R-1A ザクII (黒い三連星)

必要な部品の番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む)(こわした/なくした)

部品の注文は「普通為替」か「定額小為替」でお願いいたします。

'99.06

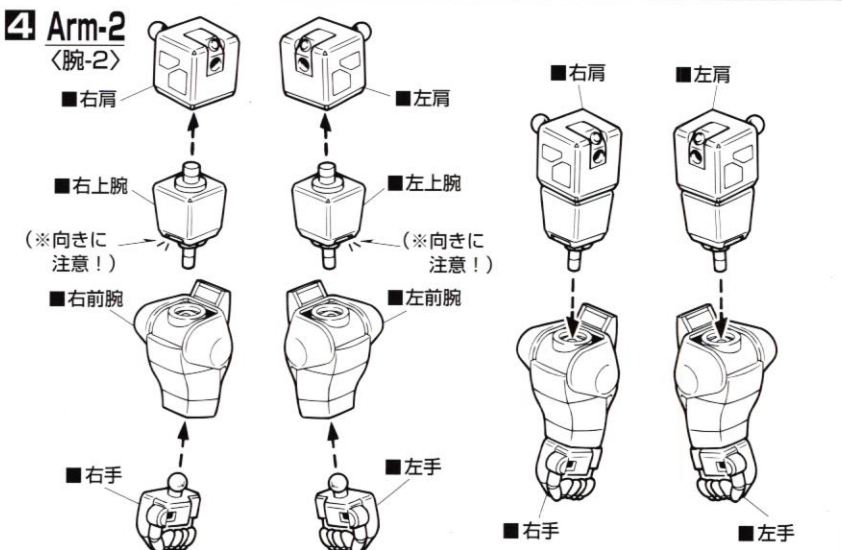
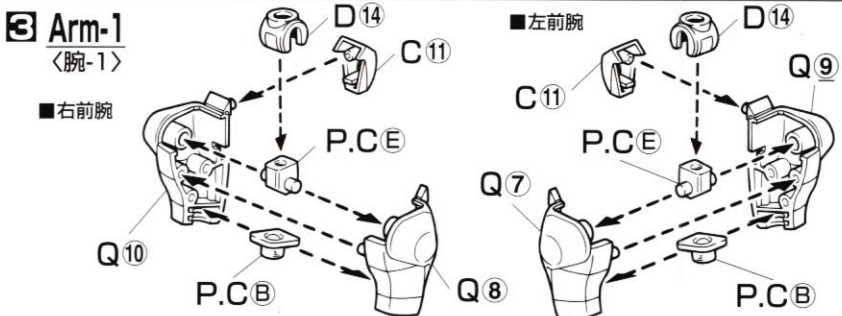
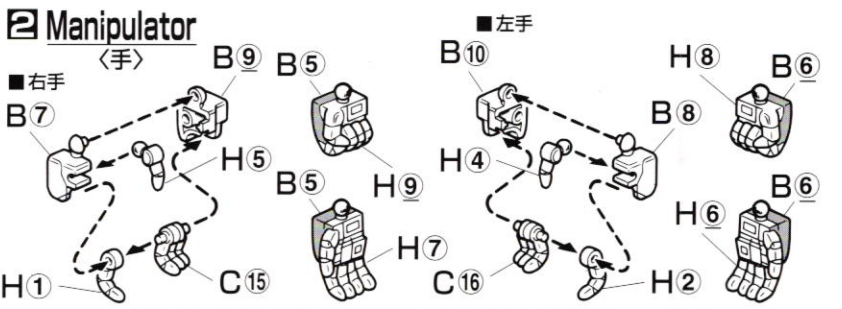
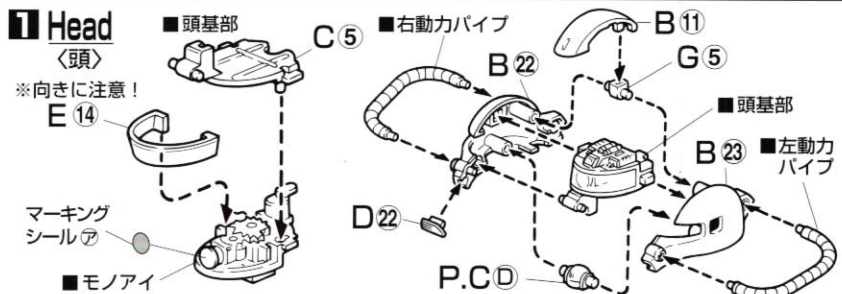
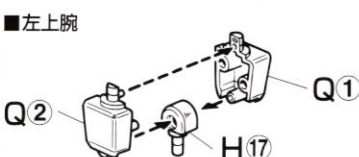
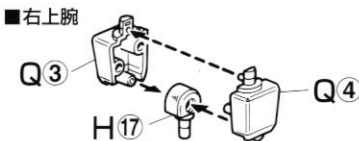
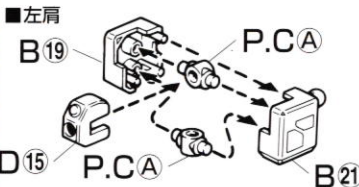
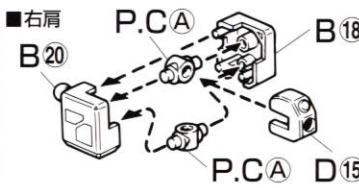
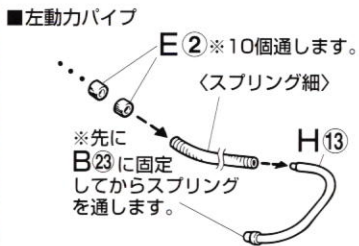
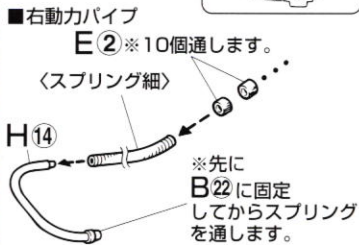
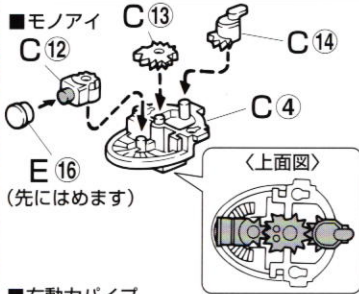
## 注意

### 必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息するおそれがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

### 〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



MS-06R ZAKUIT  
Snap Shot

Parts name of  
MS-06R ZAKUIT

Parts List

Head &  
Arm Unit

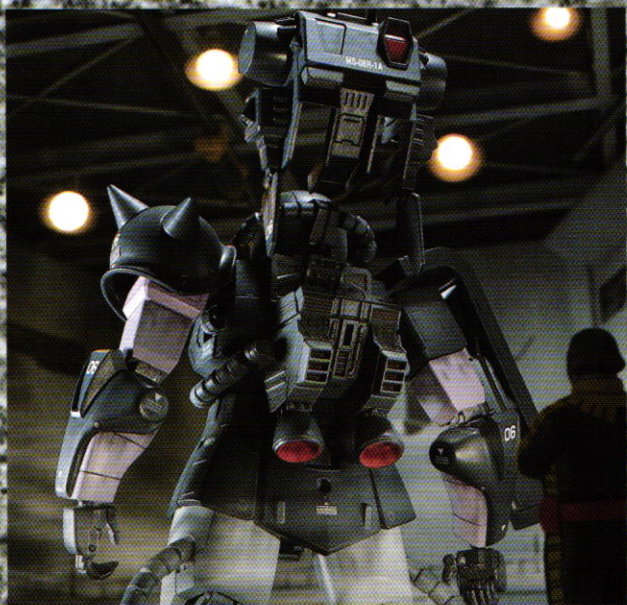
Leg Unit

Back Pack &  
Weapons

Final Assembly

## LOSZIEHEN

U.C.0079年7月。戦争は膠着状態に陥っていた。すでに月を中心とする領域の制宙権を獲得していた公国軍だったが、連邦軍は地球を挟んだ月の反対側、ルナツーの周辺宙域にケリラ部隊を展開しており、ジオン公国の補給路の寸断や拠点の急襲などを繰り返していたのである。そんな状況の中、「それを手に入れるのは、連邦軍の戦艦を沈めるよりも難しい」と言われるMSパイロット垂涎の機体「06R-1A」を受領した黒い三連星は、その名声にたがわぬ戦績を挙げ続けていた。この日も、サイド3付近に侵入してきた連邦軍の強行偵察艦隊に対し「ジェットストリーム・アタック」を駆使して攻撃を仕掛け、発見からわずか1時間でマゼラン級戦艦一隻と、EWAC装備の機体を含むセイバーフィッシュ編隊を殲滅して見せたのである。



## HÖHEPUNKT

U.C.0079年9月下旬。次期主力空間用MS選定の噂が囁かれるなか、またも黒い三連星の名を上げる戦闘が展開された。この時期、ガイア、マッシュ、オルデガの3人は、MSによる重力下戦闘の訓練を行っていたのだが、その訓練のさなか、3人に出撃要請が下った。連邦軍のルナツー所属のバトロール艦隊が、グラナダ宙域で作戦行動を展開していたのである。折しもその宙域は、訓練場から目と鼻の先であった。3人は、訓練と同時に運用試験を行っていた新武装を携えたまま、整備も補給もそこそこに当該宙域に駆けつけ、戦闘に参加した(状況については諸説ある)。この戦闘でグラナダの防空隊は連邦のマゼラン級ホルムズを撃沈。サラミス級シュリホフ、ポタニーを大破させ、多数の将兵を捕虜にしているが、このうち一隻までの戦果がガイア少尉を中心とした黒い三連星によるものだったという。

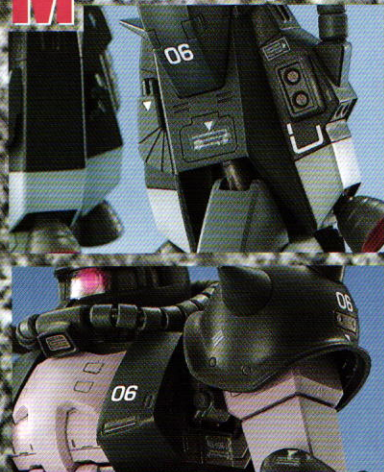


## WARTUNG

当時最高の機体と謳われた06R-1Aを駆るにはそれなりのリスクもあった。それは、高い機動性と即応性を持つがゆえの唯一の欠点でもあった。ただでさえ「整備には戦闘の10倍は時間がかかる」と言われるMSだが、この機体にはさらに数倍する時間と精度が必要とされた。それは、この機体の高性能化のためのあらゆる手法が、生産性の向上と規格化を不可能としていたのみならず、この機体を扱えるレベルの技術者が絶対的に不足していたという側面もあったからである。一説には通常のMSの整備施設ではオーバーホールすらままならなかったといわれるほどで、その格差は市販車とレースカー並みであったとも言われている。逆に言えば、この機体の運用は、本来それらのバックアップ態勢が万全であることが前提となっていたわけで、この機体を駆るエースパイロットたちによる評価の差は、そのまま彼らが置かれた待遇や環境を表しているとも言えるのである。



## MARKING



## WEAPONS



機体各部をリアルに再現するナンバー表記、注意書き等のマーキングシールをセット。形式番号等のマーキングを要望の高いガンダムデカールで再現しました。

## Pilot mush

黒い三連星のパイロット、マッシュを1/20スケールのフィギュア(人形)で再現。





# PAINTING

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。

※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

頭・胸の両側などの塗装色。  
ネービーブルー(60%)+ミッドナイトブルー(30%)+ブルー(10%)

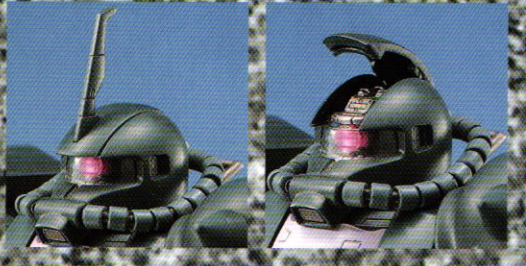
太ももなどの塗装色。  
ホワイト(90%)+軍艦色(1)(10%)

腕・胸などの塗装色。  
ホワイト(70%)+パープル(30%)+レッド少量

フンドシ・足先などの塗装色。  
ミッドナイトブルー(90%)+ブラック(10%)

関節などの塗装色。  
ニュートラルグレー(60%)+ネービーブルー(40%)

各パーニア内側などの塗装色。  
モンザレッド(100%)



## FRONT VIEW



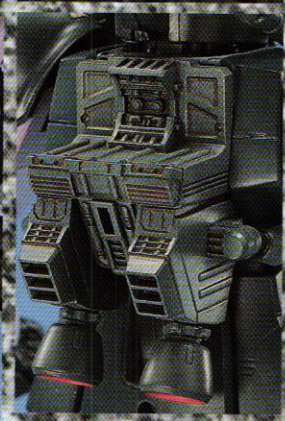
## REAR VIEW



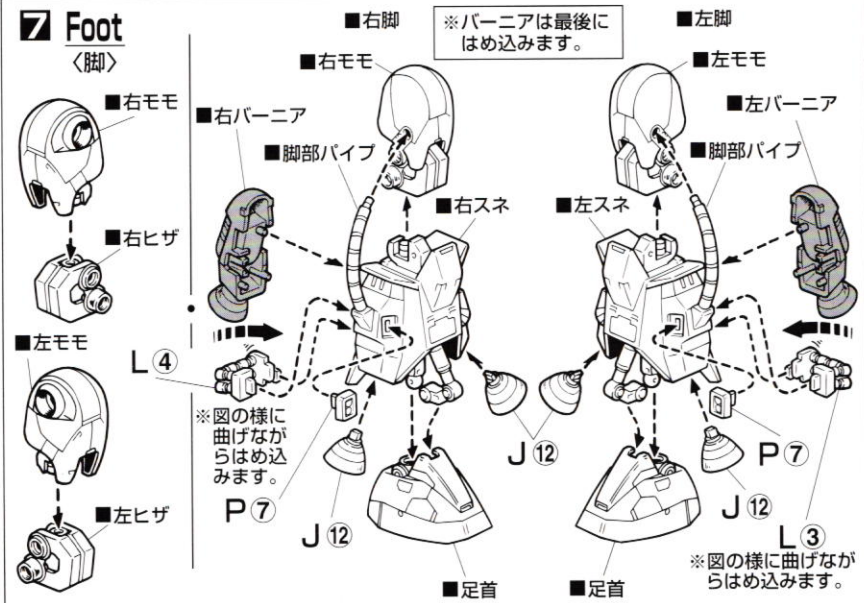
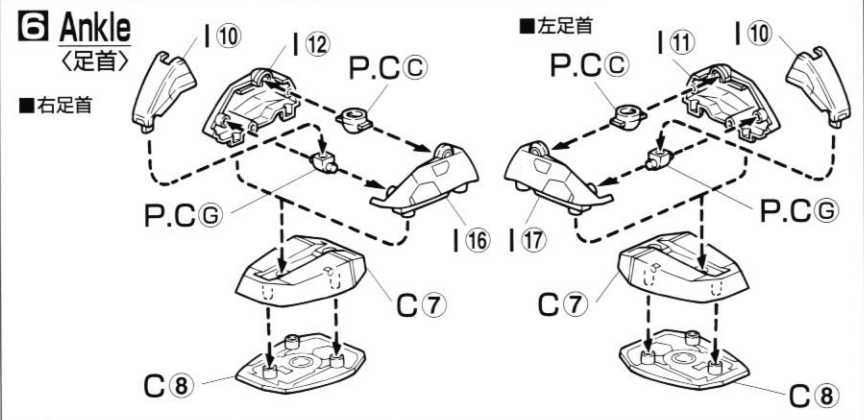
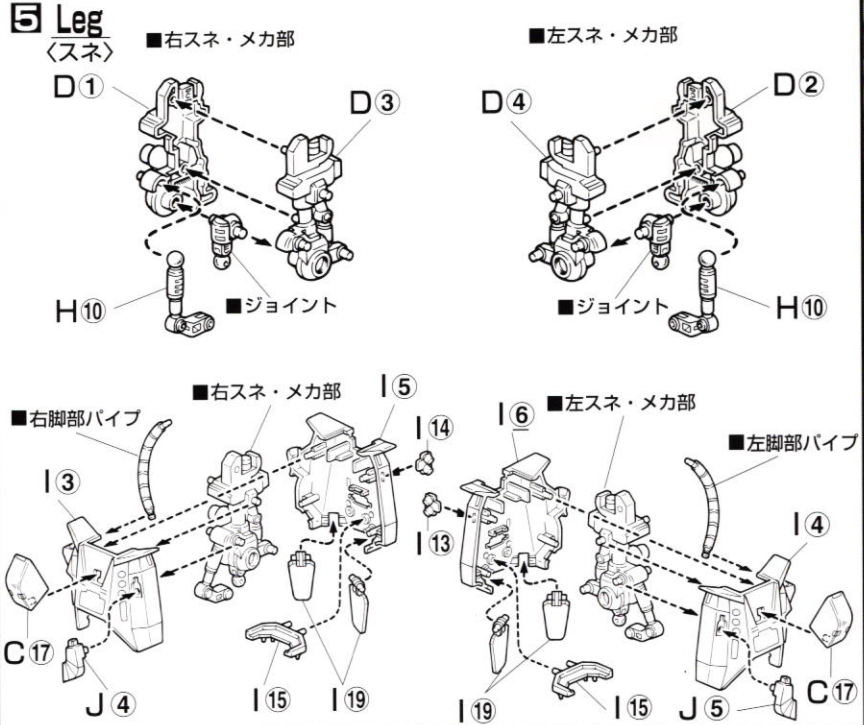
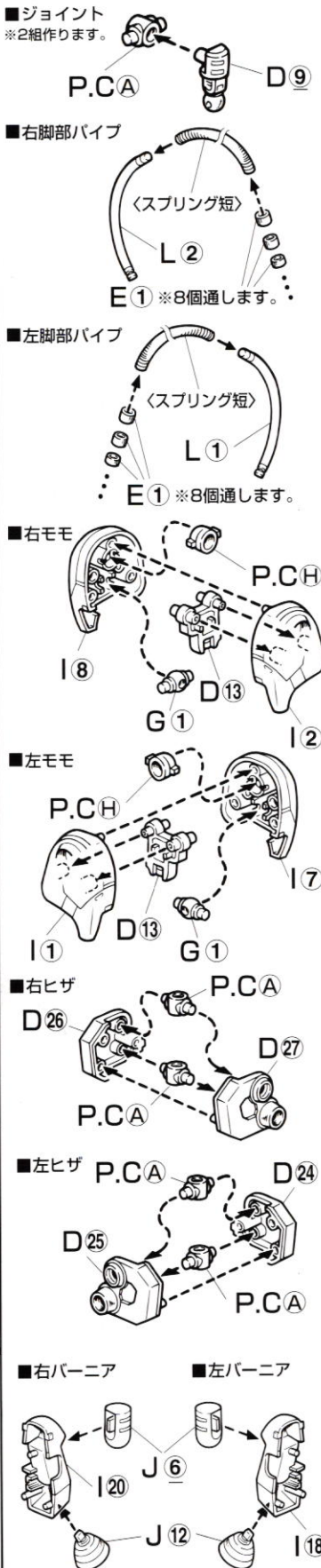
◀ コクピットハッチの開閉ギミック、コクピット内部のディテールを再現。  
▼ 背部ランドセル内部のメインスラスターユニット及びパーニアノズルをリアルに表現。



▲ 動力パイプは密巻きスプリングとパイプパーツを使い、リアルに表現。



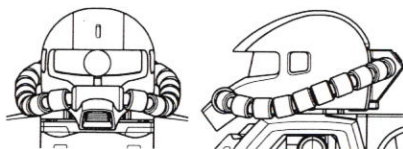
◀ 宇宙空間での高機動戦への対応により増設された脚部ブースターやバックパックのメインロケット動力部をリアルに再現。



# HEAD UNIT

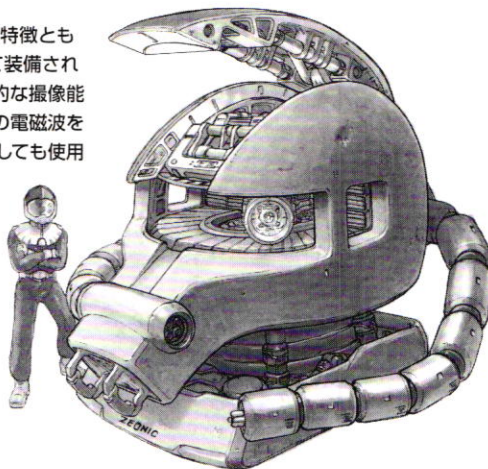
## ZA-H06R/S.U009

MS-06R-1Aには、基本的にF型と同じデザインのヘッドモジュールが使用されているが、機能向上のため、装甲や構造材、索敵、通信などの部品には、より高性能なものが採用され、内部構造も多少変更されている。



“ザク”の頭部には、公国製MSの特徴ともいえるモノアイがメインカメラとして装備されている。この端末は、いわゆる光学的な撮像能力に優れているだけでなく、広範囲の電磁波を感知できる上、アクティブセンサーとしても使用可能で、さらに、レーザー通信の送受信機能も併せ持つ。

R系の機体頭部に採用されているモノアイは、外部映像認識装置や各種複合センサーなどが換装されており、最低被写体照度の向上や動態認識装置などに若干の機能向上が計られている。また、頭部ユニットの外装の材質自体、さらに軽量で堅牢なものが採用されている。



MS-06R ZAKU II  
Snap Shot

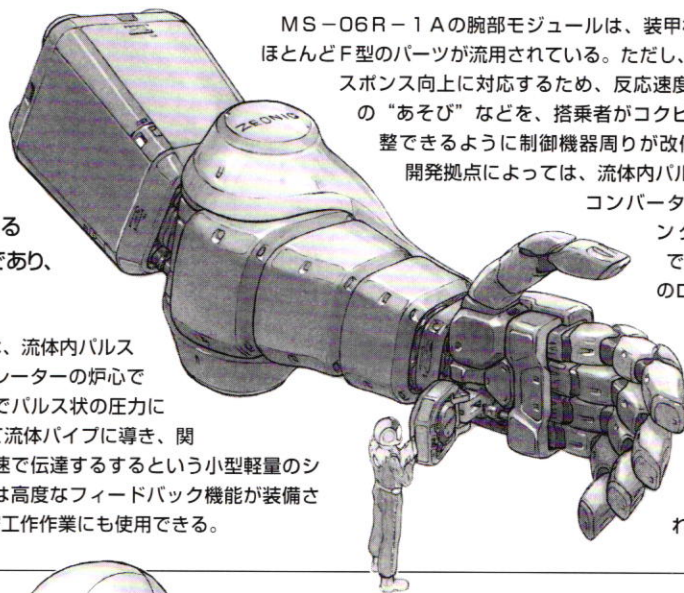
Parts name of  
MS-06R ZAKU II

# ARM UNIT

## ZA-A06R/S.U02.6

“ジェットストリーム・アタック”を始め、一撃離脱の波状攻撃を得意とする黒い三連星の機体は、他の多くのR-1Aとは異なる肩ユニットを装備しているが、これは製造拠点の違いによるものであり、性能差はほとんどない。

ザクの各関節部分に採用される駆動装置は、流体内パルスシステムと呼ばれている。これは、ジェネレーターの炉心で発生するエネルギーを特殊なコンバーターでパルス状の圧力に変換し、それを数千本の極超微細管によって流体パイプに導き、関節駆動用のロータリーシリンダーに超音速で伝達するするという小型軽量のシステムである。無論、マニピュレーターには高度なフィードバック機能が装備されており、モード変換によって戦闘にも精密工作作業にも使用できる。



MS-06R-1Aの腕部モジュールは、装甲材の材質以外、ほとんどF型のパーツが流用されている。ただし、機体全体のレスポンス向上に対応するため、反応速度や各可動部分の“あそび”などを、搭乗者がコクピットから微調整できるように制御機器周りが改修されている。

開発拠点によっては、流体内パルスシステムのコンバーターにチューニングを施すことで、関節駆動用のロータリーシリンダーのレスポンスをさらに向上させるなど、実験的な改装も試みられたらしい。

Parts List

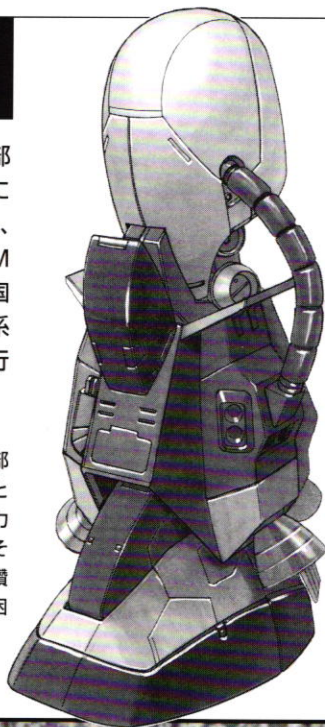
Head &  
Arm Unit

# LEG UNIT

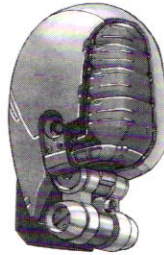
## ZA-L06R/S.U04.1

R系の機体の改修点は背部と脚部に集中している。ことに脚部の形状変化は顕著であり、実際、ザク以降に登場するMS-09やMS-14などの公国軍製MSには、この時期にR系の機体において行われた試行錯誤の影響が強く伺える。

いわゆる06R系の機体は、脚部全体を巨大なバーニアスラスタとして機能させることで、大幅な推力向上と機動性の改善に成功した。そのために費やされた技術的な研鑽は、新型のMSを開発する以上の困難が伴ったと言われている。

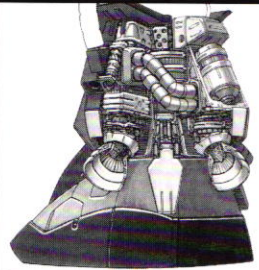


大腿部機構図



R系の機体は各所にプロペラントタンクを増設しているが、共通しているのは大腿部後方のもので、容積や圧力規格はほぼ同一である。F型に比べ稼働範囲は制限されるが、宇宙空間の運用ではほとんど支障はなかったと言う。

脚部機構図

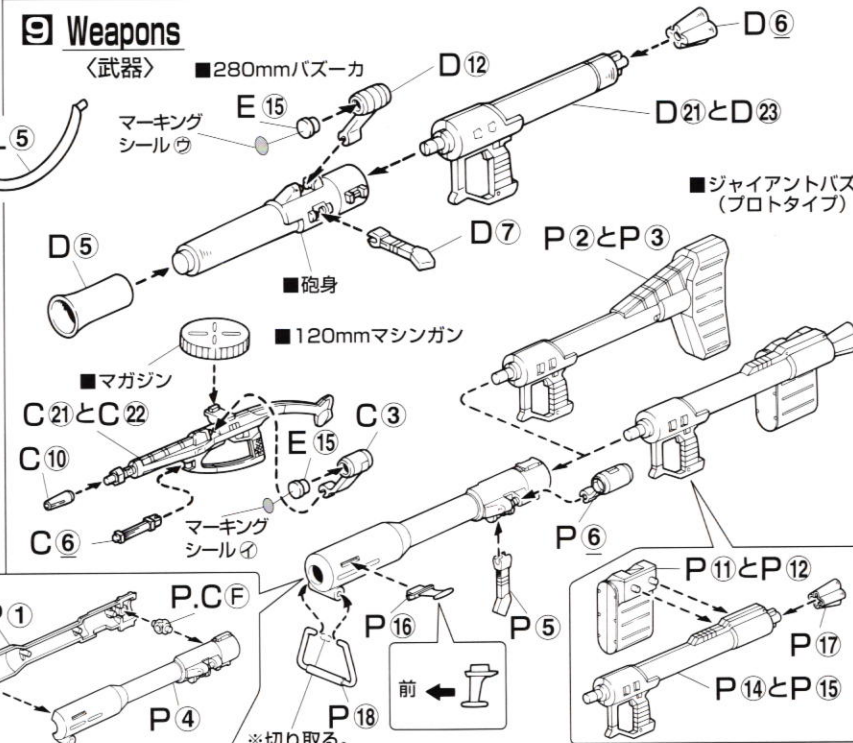
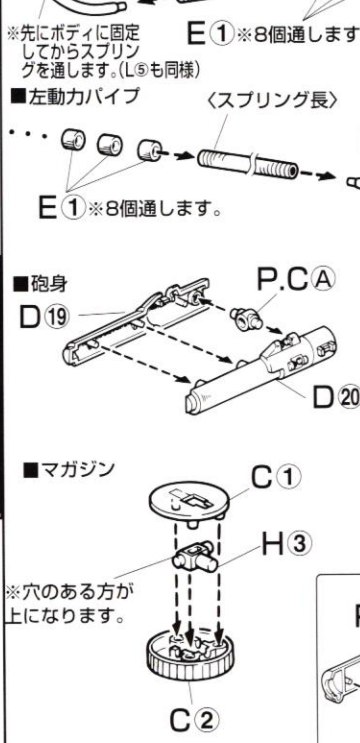
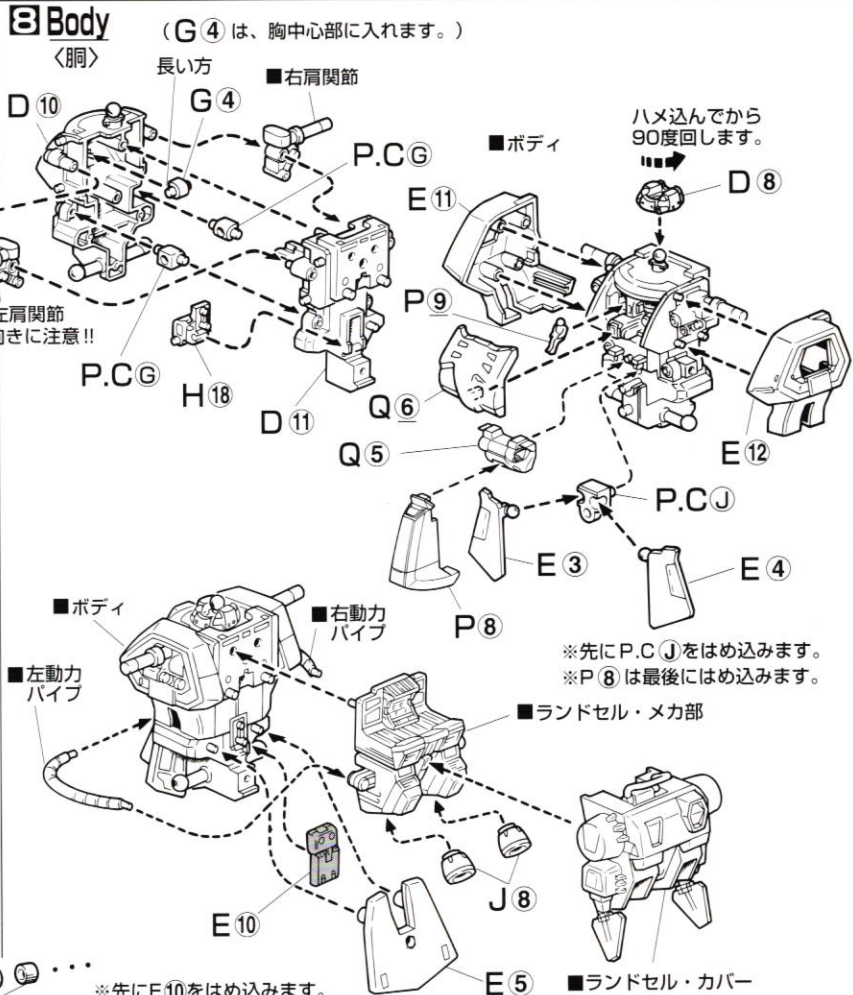
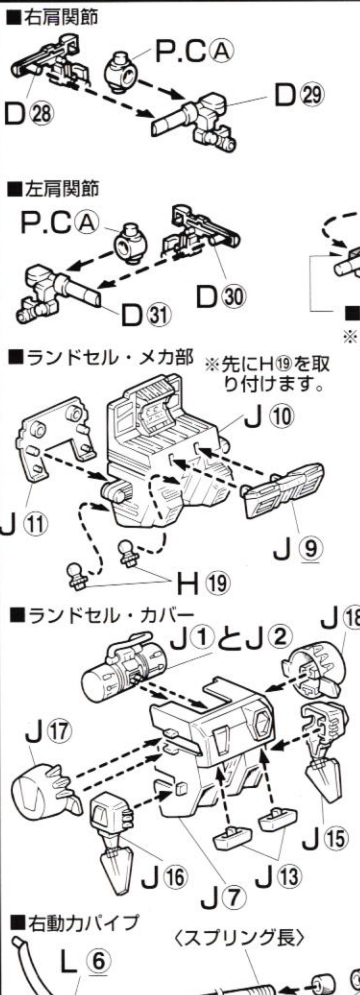


R-1Aの脚部ユニットは、歩行に最低限必要な機構を残しつつ、各関節のアクチュエーターを高レスポンス、高トルクのものに換装し、強力なバーニアスラスタが三基とコ・ジェネレーター、そしてプロペラントタンクで構成されている。

Leg Unit

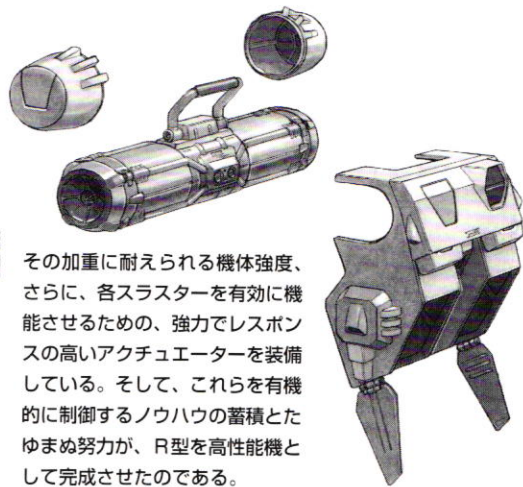
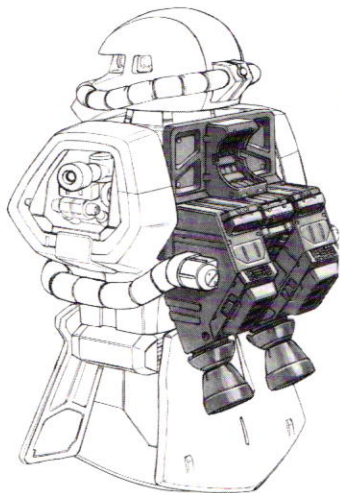
Back Pack &  
Weapons

Final Assembly



# BACK PACK

“ザク”のバックパックの換装は、機雷敷設のためのメインレイヤー仕様機などいくつかのバリエーションが存在し、それぞれある程度の互換性が確保されていた。しかし、R型の機体は、ボディ構造から変更されているため、専用のものとなっている。R型のプロベラントタンクは、F型ではラジエーションユニットが装備されていた部分に取りつけられている。そのためあまり目立たないが、ボディ内部の構造やジェネレーター配置、各部品形状などは、かなり変更されている。R型の機体は、たんにパーニアスラスターの推力を向上させたばかりでなく、それらを高出力で稼働させる高出力ジェネレーターと、



その加重に耐えられる機体強度、さらに、各スラスターを有効に機能させるための、強力でレスポンスの高いアクチュエーターを装備している。そして、これらを有機的に制御するノウハウの蓄積とたゆまぬ努力が、R型を高性能機として完成させたのである。

R系のバックパックは、F型のものが持つ機能を下方部分に圧縮し、大容積のプロベラントタンクを追加装備している。また、背面全体を巨大な複合パーニアとして機能させることもでき、圧倒的な加速性能を獲得している。

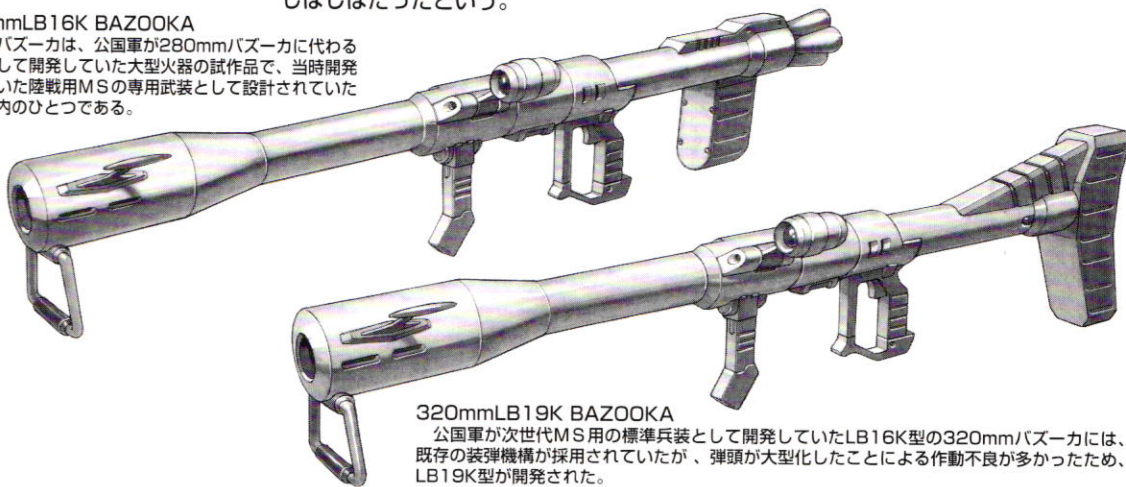
# WEAPONS

H&L-LB16K/320mm  
H&L-LB19K/320mm

黒い三連星が使用する武装は、彼らの基本戦法である“一撃離脱”のためのものが多い。ただし、大戦初期に多用された280mmバズーカは、通常弾頭を使用した場合、対艦戦闘において効果が低く、さらに威力の大きな兵装が必要とされていた。彼らは、そういった試作品の運用試験や試作評価を依頼されることも多く、そのまま実戦に赴くこともしばしばだったという。

## 320mmLB16K BAZOOKA

このバズーカは、公国軍が280mmバズーカに代わる兵装として開発していた大型火器の試作品で、当時開発されていた陸戦用MSの専用武装として設計されていたものの内のひとつである。



## 320mmLB19K BAZOOKA

公国軍が次世代MS用の標準兵装として開発していたLB16K型の320mmバズーカには、既存の装弾機構が採用されていたが、弾頭が大型化したことによる作動不良が多かったため、LB19K型が開発された。

# PILOT



MUSH「マッシュ」

彼らの軍歴は0076年5月の教導機動大隊編成の時期まで遡ることができる。当時彼らは第二中隊D小隊に所属しており、開戦時にはサイド5攻略部隊として行動を共にしていた。ルウム戦役時には、少尉となったガイアを中心にオルテガ、マッシュらが参集して、すでにチームを組んでいたと言われている。

彼らの機体が有名な「黒い三連星」カラーに塗装されるのは、ルウム戦役において連邦軍のレビル將軍を捕縛した功績によってSタイプへ乗り換えてからだというのが定説だが、その塗装パターンはルウム戦役時複数目撃されており、彼らのエンブレム自体、突撃機動軍所属を示すものであったため、ただ単に第7師団所属の小隊に割り振られたものではないかという説もある。ちなみに、彼らの機体ナンバーだが、ガイアが03、マッシュが02、オルテガが06であるということから考えても、元々は別の小隊であった彼らが、前線で意気投合したという可能性もあるだろう。



## ■ 黒い三連星



メンバー、左からオルテガ、ガイア、マッシュの三人。三人一組で、連携した戦いを行っていた。

MS-06R ZAKU II  
Snap Shot

Parts name of  
MS-06R ZAKU II

Parts List

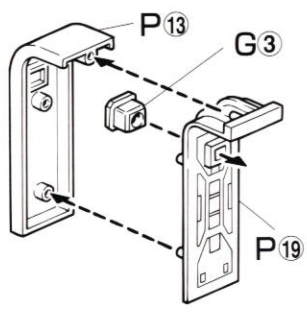
Head &  
Arm Unit

Leg Unit

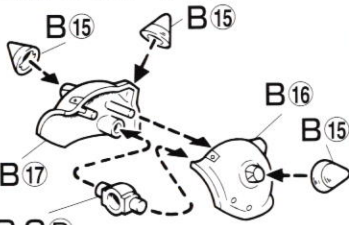
Back Pack &  
Weapons

Final Assemble

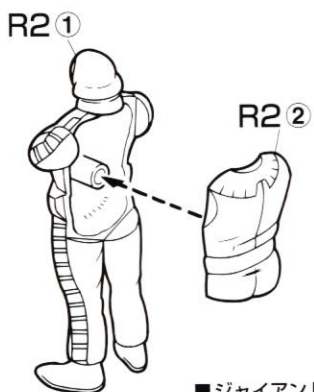
■右肩：シールド



■左肩：ショルダーアーマー

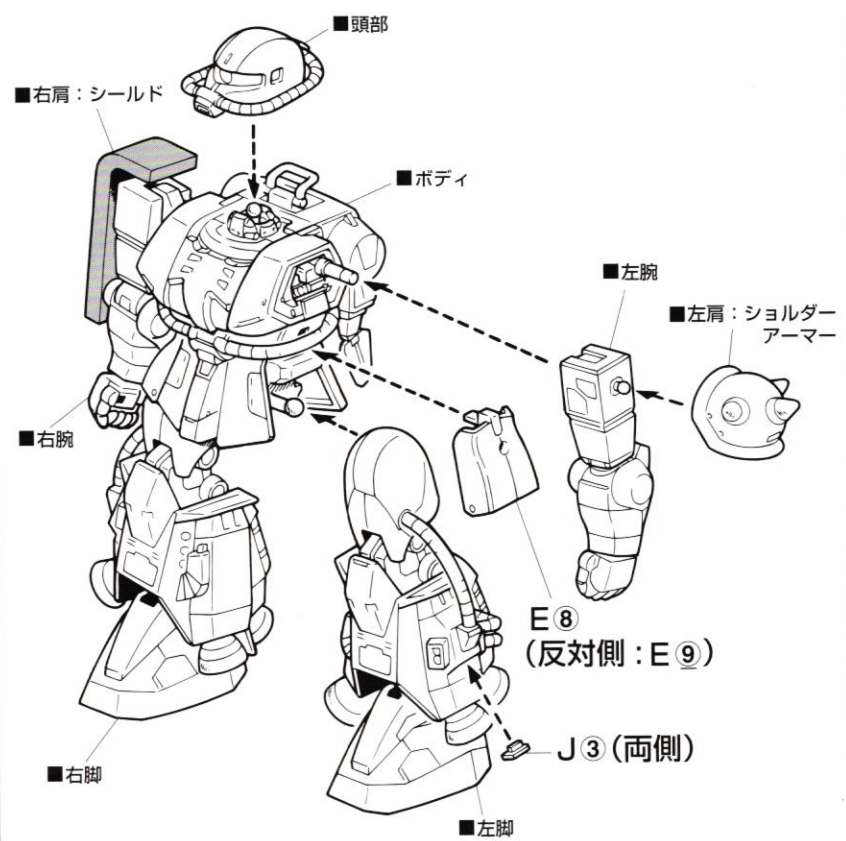


■フィギュア



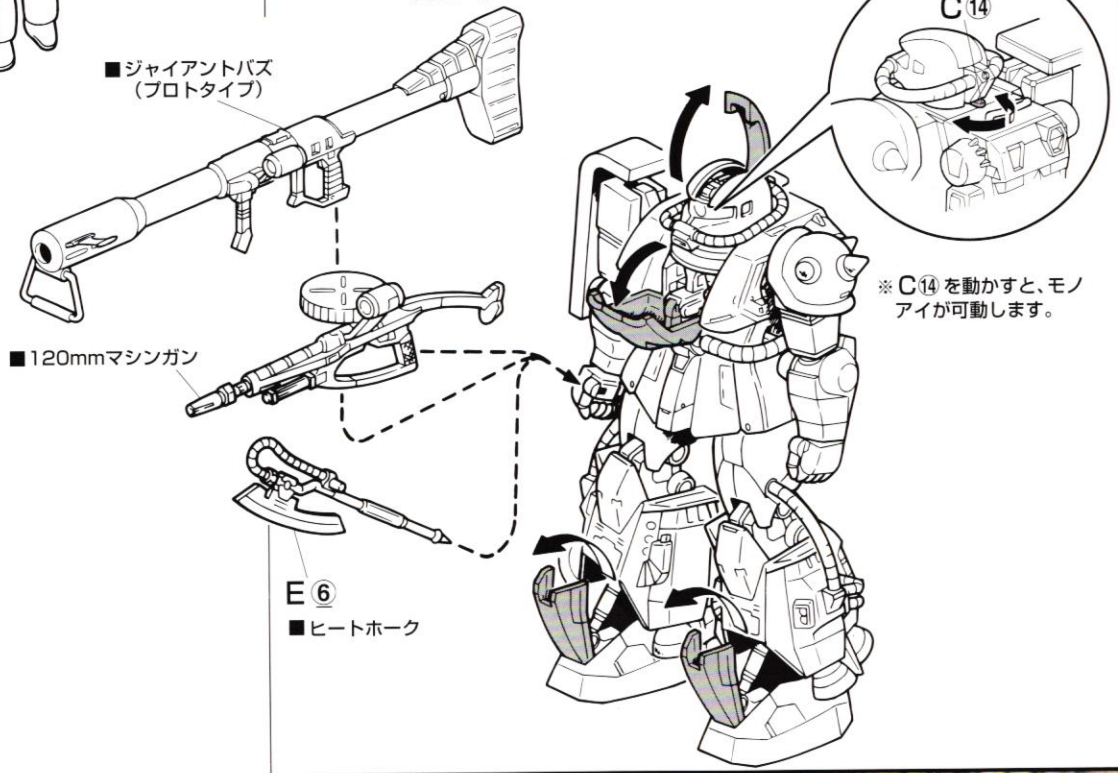
10 Final Construction-1

〈完成-1〉



11 Final Construction-2

〈完成-2〉







協力：ホビージャパン



ジオン公国軍宇宙空間戦用  
高機動型モビルスーツ  
MS-06R-1A「ザクⅡ」  
チームカラーバリエーション 黒い三連星  
1/100スケール マスターグレードモデル

**MS-06R-1A ZAKU II**  
PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT





Photo : スタジオR



ジオン公国軍宇宙空間戦用  
高機動型モビルスーツ  
MS-06R-1A「ザクⅡ」  
チームカラーバリエーション 黒い三連星  
1/100スケール マスターグレードモデル

**MS-06R-1A ZAKU II**  
PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE MOBILE SUIT